高瀬中だより

校長通信 No.6
2021.10.18

何事も決まってからが勝負！　　校長　千秋 久宣

先日、１０月１１日（月）、運命の「プロ野球ドラフト会議」がありました。

「ドラフト会議」とは日本野球機構が開催する、プロ球団が新人選手の獲得のために行われる会議で、正式には「新人選手選択会議」と呼ばれます。野球経験者からすれば、ドラフトにかかることは夢や目標であります。希望だけで入団することはできず、プロ野球チームからの指名がなければ入団することはできないわけですから、指名された瞬間は「最高の気分」であることは間違いのないところでしょう。

しかし、そのドラフトで指名された選手であっても、すべての選手が一流選手になるわけではありません。活躍を夢見て入団した数年後、「戦力外通告」を受ける選手も数多くいます。勝負の世界は厳しく、実力を問われる世界では、経験年数は関係なく、チームとして必要とされなければ辞めざるを得なくなるのです。これはあくまで、プロの世界であり競争の世界ですから仕方のないことかもしれません。

さて、世の中においても、ここまでは厳しくはないにしてもこれに近い例は多いのではないでしょうか。例えば、高校入試や大学入試だって同じだと思います。高校や大学には「戦力外通告」はありませんが、入学することで終わりではないはずです。受験には目的があって、入学すれば、卒業後の目的のためにがんばって勉強や運動に励まなくてはなりません。とすれば、「入ることで目的達成」ではなく、本当は、そこからの努力が大切だということです。先ほど述べたプロ野球の世界では、新入団選手のほとんどは、これから入団が決まってからが勝負であり、必死になって練習し、レギュラーをめざし、さらにレギュラーとして定着し続けることを考えているはずでしょう。

中学校生活に目をうつしていきましょう。

本校でも、生徒会では新しい役員が決まり、今後、専門部委員や学級での各係も決まっていくことになります。自分のやりたい役割につくことができる人もいるとは思いますが、なかには、そうでない人もいると思います。しかし、役割が決まったことで終わりではなく、決まったあとの働きこそが大事であり、そこを評価されることになります。さらに言えば、学校で行われている行事も同じです。１０月２３日（土）には合唱コンクールが開かれます。練習の過程で、合唱の素晴らしさや曲そのものの意味などを知ることができたと思いますが、それ以外にも、みんなで思いを共有したり、団結の難しさを知ったり・・と決してスムーズに事が進んだことばかりではなかったでしょう。目標達成のため、学級全体が一つになることの大切さを学んだ人も多いと思います。そうして学んだことをぜひ、毎日の生活に生かそうと努力してほしいのです。それが行事をする意味だと思うのです。いい合唱を聞かせたいという目標に向かっていい努力をすればきっと、目標達成はもちろん、合唱コンクールという行事のあとも、さらにいい学級（チーム）につながるはずです。

「何事も決まってからが勝負です。」「終わったところからが次への始まりです。」